



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月7日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 8214 URL https://www.aoki-hd.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	26,204	△39.5	△7,566	—	△7,767	—	△6,429	—
2020年3月期第1四半期	43,334	△3.9	228	△66.1	△125	—	△288	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △6,491百万円(—%) 2020年3月期第1四半期 △434百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年3月期第1四半期	円 銭 △75.94	円 銭 —
2020年3月期第1四半期	△3.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年3月期第1四半期	百万円 245,152	百万円 130,826	% 53.2
2020年3月期	229,843	139,209	60.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 130,542百万円 2020年3月期 138,981百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 46.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期(予想)の第2四半期末及び期末配当予想は、現時点では未定です。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大が業績に与える影響を現段階において合理的に算定することが困難なことから未定としております。

今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期1Q	90,649,504株	2020年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	5,974,148株	2020年3月期	5,974,058株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期1Q	84,675,379株	2020年3月期1Q	85,925,130株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・四半期決算補足説明資料については、2020年8月7日(金)の決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「同感染症」といいます。）拡大に伴う緊急事態宣言や外出自粛要請などから経済活動が抑制され、企業業績及び雇用や所得環境は悪化し厳しい状況となりました。また、世界的にも同感染症の収束時期等是不透明であり、先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは同感染症への対策を行いながら下記のような諸施策を実施しましたが、売上高は262億4百万円（前年同期比39.5%減）、営業損失は75億66百万円（前年同期は営業利益2億28百万円）、経常損失は77億67百万円（前年同期は経常損失1億25百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は64億29百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億88百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(ファッション事業)

ファッション事業では、同感染症の拡大及び4月7日の日本政府による緊急事態宣言に伴い、店舗の営業時間の短縮や一部店舗で臨時休業となりましたが、6月1日より全店舗で営業を再開いたしました。商品面では、新たなビジネススタイルに合わせた着回しのしやすいセットアップスーツやジャケット等を提案するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として、5月1日より3密を避けるためオンラインショップで抗菌・洗えるマスクの予約販売を開始しご好評をいただいております。また、オンラインショップの施策として、店舗とECの連携強化及びオンライン上でスタイリングの提案を行う「STAFF START」の運用を開始しました。店舗面では、ORIHICAで3店舗を新規出店した一方、営業効率改善のためAOKIで2店舗を閉鎖した結果、当第1四半期末の店舗数は639店舗（前期末638店舗）となりました。

これらの諸施策を実施しましたが、同感染症拡大防止のため、一部店舗の休業や外出自粛等の影響でお客様の数及び単価が大きく減少したこと等により、売上高は165億95百万円（前年同期比31.4%減）、営業損失は29億44百万円（前年同期は営業損失3億95百万円）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業では、緊急事態宣言後、全施設において挙式・披露宴を見合わせておりましたが、6月1日から公益社団法人日本ブライダル文化振興協会からの「新型コロナウイルス感染拡大防止に関するガイドライン」に沿った対策を講じ結婚式のサービスを再開いたしました。この間、2月末から発生した日程変更やキャンセルなどのお客様への対応及びオンラインでの打ち合わせを実施いたしました。また、特別プランやオンラインウェディングなどの新プランを開発するとともに販促を強化いたしました。

しかしながら挙式・披露宴の延期等により施行組数が大きく減少し、売上高は2億53百万円（前年同期比95.5%減）、営業損失は13億24百万円（前年同期は営業損失35百万円）となりました。

(エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業では、緊急事態宣言により、多くの店舗が4月、5月において臨時休業や営業時間の短縮となり、通常の営業活動を控える結果となりました。快活CLUBでは、4月末より3密にならない対策を徹底したうえで、段階的に営業を再開するとともに、テレワーク・シェアオフィスといったビジネスニーズの増加に対応した「シェアリングスペース」としての利用を促進し、業態の進化を図っております。店舗面では、快活CLUBで27店舗及びFIT24で5店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため5店舗を閉鎖した結果、当第1四半期末の店舗数は629店舗（前期末602店舗）となりました。

これらの諸施策を実施しましたが、緊急事態宣言後の臨時休業及び外出自粛の影響等でお客様の数が大きく減少したこと等により、売上高は90億23百万円（前年同期比32.0%減）、営業損失は35億24百万円（前年同期は営業利益4億63百万円）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、各事業の閉店店舗の賃貸を推し進めたこと等により、売上高は9億72百万円（前年同期比14.9%増）、営業利益は1億95百万円（前年同期比60.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の増加等により前連結会計年度末と比べ153億8百万円増加し、2,451億52百万円となりました。

流動資産は、売掛金が季節的要因等により30億27百万円減少した一方、現金及び預金が借入れ等により118億99百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ83億52百万円増加いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により34億37百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ69億56百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により36億50百万円減少した一方、短期借入れを140億円実施したこと等により、前連結会計年度末と比べ142億48百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入れを110億円実施したこと等により94億42百万円増加いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失及び剰余金の配当の結果83億77百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ83億82百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染症の影響等により大幅な減収減益となりました。

今後の見通しにつきましては、現段階において新型コロナウイルス感染症拡大の沈静化や経済活動が同感染症の拡大以前に戻る時期等及び当社グループの売上高に与える影響等を合理的に算定することが困難であることなどから、2021年3月期の通期連結業績予想は未定としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,843	35,743
売掛金	8,455	5,428
たな卸資産	24,181	23,090
その他	8,851	9,422
貸倒引当金	△36	△36
流動資産合計	65,297	73,649
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,501	69,519
土地	36,138	36,138
その他（純額）	14,893	15,312
有形固定資産合計	117,533	120,970
無形固定資産		
投資その他の資産	5,631	5,505
投資その他の資産		
差入保証金	7,740	7,714
敷金	20,653	20,870
その他	13,028	16,482
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,382	45,026
固定資産合計	164,546	171,502
資産合計	229,843	245,152

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,563	10,913
短期借入金	—	14,000
1年内返済予定の長期借入金	3,493	3,493
未払法人税等	407	360
賞与引当金	1,357	908
役員賞与引当金	39	23
その他	12,727	17,138
流動負債合計	32,587	46,836
固定負債		
長期借入金	40,332	49,290
ポイント引当金	695	625
退職給付に係る負債	1,276	1,295
資産除去債務	7,591	7,600
その他	8,150	8,677
固定負債合計	58,046	67,488
負債合計	90,634	114,325
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,823	27,823
利益剰余金	96,298	87,921
自己株式	△7,592	△7,592
株主資本合計	139,812	131,435
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△726	△804
退職給付に係る調整累計額	△105	△88
その他の包括利益累計額合計	△831	△893
新株予約権	228	284
純資産合計	139,209	130,826
負債純資産合計	229,843	245,152

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	43,334	26,204
売上原価	26,101	20,165
売上総利益	17,233	6,038
販売費及び一般管理費	17,005	13,605
営業利益又は営業損失(△)	228	△7,566
営業外収益		
受取利息	24	18
受取配当金	27	16
その他	49	46
営業外収益合計	101	81
営業外費用		
支払利息	68	82
固定資産除却損	222	121
その他	164	77
営業外費用合計	455	281
経常損失(△)	△125	△7,767
特別利益		
固定資産売却益	50	—
新株予約権戻入益	3	—
雇用調整助成金	—	273
特別利益合計	53	273
特別損失		
減損損失	220	235
臨時休業等による損失	—	1,976
特別損失合計	220	2,212
税金等調整前四半期純損失(△)	△292	△9,705
法人税、住民税及び事業税	112	84
法人税等調整額	△116	△3,359
法人税等合計	△4	△3,275
四半期純損失(△)	△288	△6,429
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△288	△6,429

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△288	△6,429
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△160	△77
退職給付に係る調整額	13	16
その他の包括利益合計	△146	△61
四半期包括利益	△434	△6,491
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△434	△6,491
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症(以下、「同感染症」といいます。)の影響は、現在においても継続しており、当社グループの事業活動にも大きな影響を及ぼしております。

同感染症の拡大による影響は、各事業において当社グループが店舗展開する国内全ての地域において今後も一定程度の広がりを見せ、関係する店舗における売上高、営業利益は、同感染症が収束し国内の経済活動が回復するまでの間、店舗の稼働状況、需要の低下等に応じて減少する可能性があります。それぞれの事業において、当連結会計年度の売上高は、同感染症の影響を受けた前連結会計年度と比べ、ファッション事業で5%から25%程度、アニヴェルセル・ブライダル事業で20%から30%程度及びエンターテイメント事業で同水準から25%程度減少する可能性があると見込んでおります。

当社グループは、同感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に関する考え方に重要な変更はありませんが、最善の見積りとして、最短で2020年9月末及び最長で2021年3月末に経済活動が同感染症の拡大以前に戻るシナリオを想定しており、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性などの会計上の見積りの一部については、期待値による方法を用いて財務諸表計上額を算定しております。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	24,181	5,588	13,261	302	43,334	—	43,334
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	3	0	544	547	△547	—
計	24,181	5,592	13,261	846	43,882	△547	43,334
セグメント利益 又は損失(△)	△395	△35	463	122	154	73	228

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額73百万円には、セグメント間取引消去1,052百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△979百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗及び損益が継続的にマイナスとなる転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ167百万円、37百万円及び14百万円です。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	アニヴェ ルセル・プ ライダル事業	エンター テイメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	16,594	253	9,023	290	26,161	42	26,204	—	26,204
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	—	682	683	—	683	△683	—
計	16,595	253	9,023	972	26,844	42	26,887	△683	26,204
セグメント利益 又は損失 (△)	△2,944	△1,324	△3,524	195	△7,597	32	△7,565	△1	△7,566

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1百万円には、セグメント間取引消去1,083百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,084百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」及び「エンターテイメント事業」の両セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ25百万円及び210百万円です。